

○第1種学校感染症

病名	出席停止期間
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、特定鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9)	治癒するまで

○第2種学校感染症 空気感染または飛沫感染するもので、学校において流行を広げる可能性が高いもの

病名	症状	潜伏期間	出席停止期間
新型コロナウイルス感染症 *型の変異によって、症状・潜伏期間の変化あり	頭痛、風邪症状全般(特に喉の痛み・咳)から急な発熱を伴うことが多い。嗅覚・味覚異常が特徴。無症状もあり	※中央値 2~3日	発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
インフルエンザ	急な発熱(高熱)、悪寒、頭痛、関節痛、全身倦怠感、喉の痛み、咳、鼻水	1~4日 ※平均2日	発症後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
百日咳	止まらない咳(特に夜間)、コンコンと連続して咳込んだ後、ヒューという笛を吹くような音をたてて急いで息を吸うような、特有な咳発作が特徴	7~10日	特有の咳が消失するまで 又は5日間の適切な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹(はしか)	咳、鼻水、結膜充血、発熱、頬の内側のコプリック斑(白い斑点)が特徴	8~12日	解熱した後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎(おたふく)	耳下腺(片側または両側)の腫脹が特徴。顎下腺や舌下腺が腫れる場合もある。発熱、嚥下時の痛み	16~18日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が出現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風しん(三日はしか)	発熱と同時に発疹に気付く。頸部・耳の後ろのリンパ節の腫れ	16~18日	発疹が消失するまで
水痘(みずぼうそう)	発疹→水泡→かさぶた・かゆみが特徴	14~16日	全ての発疹が痂皮化(かさぶた)するまで
咽頭結膜熱(プール熱)	アデノウイルスによる。高熱、咽頭痛、頭痛、結膜充血、目やに、首・後頭部のリンパ節腫脹・圧痛	2~14日	主要症状が消退した後2日を経過するまで
結核	初期は自覚症状なし。発熱、咳、タン、疲労感、体重減少	2年以内 (6か月以内)	医師が感染のおそれがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	発熱(高熱)、頭痛、意識障害、嘔吐、頸部硬直	主に4日以内	医師が感染のおそれがないと認めるまで

○第3種学校感染症

病名	出席停止期間
コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス、腸管出血性大腸菌感染症(O-157)、流行性結膜炎、急性出血性結膜炎	病状により、医師が感染のおそれがないと認めるまで *登校再開後、しばらくウイルスが排出される病気もあるため、注意事項等を医師に確認してください。

<その他の感染症>

学校で通常みられない重大な流行が起こった場合に、学校医の意見により第3種の感染症として取り扱う場合がある感染症

病名	対応について
感染性胃腸炎(ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症等) サルモネラ感染症、ウイルス性肝炎、伝染性紅斑(リンゴ病)、溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、インフルエンザ菌(Hib)感染症・肺炎球菌感染症、RSウイルス感染症・EBウイルス感染症、単純ヘルペスウイルス感染症・带状疱疹、	単独では、直ちに出席停止とはならないが、病状により、医師が感染のおそれがないと認めるまで欠席及び治療を受ける。 *登校再開後、しばらくウイルスが排出される病気もあるため、注意事項等を医師に確認してください。
※アタマジラミ、伝染性軟属腫(水いぼ)、伝染性膿痂疹(とびひ)、疥癬(かいせん)、皮膚真菌症(カンジタ感染症、白癬(はくせん)・トングランス感染症)	出席停止の必要はありませんが、感染拡大防止等の配慮事項が必要なため、担任に御連絡ください。医師の指示に従い治療を受けてください。